



2017・2・21

第264号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

共謀罪法は「戦争する国」づくりの一環

意見広告で地域の会が奮闘

【新潟県・新潟県9条の会】 新潟県9条の会が取り組んでいる「自衛隊員を戦場に送らない 戦争法廃止！9条守れ」の意見広告ポスター賛同者募集で、各地で取り組みが進められています。

むらかみ9条の会は、「通信」を発行し、賛同者を広げています。その中で、ある部隊所属の自衛隊員の息子が帰省した時の母親との会話が紹介されています。息子が「(南スーダン派遣要請が)うちの師団にも来るかも。でも(行けば)お金になるから」と言ったので、母親は「お金の問題じゃありません。心配です」と話したといっています。

同会の事務局長は「前回の意見広告ポスターのときより、どこでも今度は死者が出るのではないかと危機感を口にしています。取り組みを強めたい」と語っています。

柏崎刈羽9条の会は、世話人会のメンバーを補強し、3月20日に田中淳哉弁護士を講師に「共謀罪」法案の学習会を行うことを決めました。こうした取り組みと合わせ、意見広告ポスターは賛同者500人を目標に1000枚を張り出すことをめざしています。事務局長は「『動きが遅い、弱い』を克服す

九条の会第6回全国交流集会の 成果をこれからの運動に =<報告集>=

◇主な内容 呼びかけ人あいさつ(澤地久枝)/問題提起(小森陽一)/世話人あいさつ・メッセージ/分散会の報告(第1～第7分散会)/資料 アンケートから見た九条の会の課題、他

◇B5判 76頁 1冊 800円(〒82)

5部以上〒無料 10部以上1割引

=< DVD >=

◇主な内容 呼びかけ人あいさつ/事務局長報告/世話人あいさつ・紹介

◇取り扱い 1本 1500円(〒160)

るための活動を開始した」と語っています。

阿賀野市笹神9条の会は、3月18日に齋藤裕弁護士を講師に憲法カフェを計画し意見広告ポスターの取り組みも強めています。

「日報」めぐるウソに抗議

【青森県・青森県九条の会】 青森県九条の会は2月9日、青森市新町で街頭宣伝に取り組み、安倍政権が廃棄したと説明し

ていた南スーダンPKO部隊に関する日報の存在を一転して認めたことに抗議の声を上げました。宣伝には、あわせて19人がチラシやティッシュを配布しながら、自衛隊の南スーダンからの即時撤退と戦争法廃止を求める署名協力を呼びかけました。

マイクを握った参加者は、政府は日報の存在を知りながら戦争法に基づく駆け付け警護の新任務を負わせ派兵を強行するために、事実を隠し国民を欺いたと言わざるを得ないと批判しました。『隠ぺい、ごまかし、ペテンで自衛隊員の命を軽く扱う安倍政権の暴走をくい止めよう』と訴えました。

署名した女性(60)は「私たちの声に耳を貸す政府ではない。だからと言って何もしないわけにはいかない。撤退するまで何度でも声を上げたい」と話しました。会社員の男性(45)は「いいかげんで身勝手な政府の命令に従い、南スーダンへ行かなければいけなかった自衛隊員の事を考えると、つらくてかわいそうで悔しくて、腹が立ちます」と語りました。

憲法を次の世代に引き継ぐ責任

【徳島県・九条の会徳島】 九条の会徳島は9日朝、徳島市で戦争法廃止と9条を守ろうとスタンディング宣伝しました。

冷たい雨のなか、18人が徳島駅前の元町交差点の4ヵ所に分かれ、「許すな！集团的自衛権行使容認 守ろう憲法9条」「I Love 憲法」などの横断幕、プラカードを掲げてアピール。市民が注目していました。

宣伝は、集团的自衛権行使容認の「閣議決定」がされた直後の2014年9月から毎月行われています。

参加した会社員の男性(38)は「安倍政権の強引なやり方は納得できない。普段の生活を成り立たせている憲法を次の世代に引き継ぐ責任がある」と語りました。

戦争法強行直後から毎月3回宣伝

【愛媛県内子町・憲法九条を守る内子町民の会】 「内子町民の会」は2月9日、町内でスタンディング宣伝し、戦争法廃止を訴えました。2015年11月から毎月「9」のつく9、19、29の3日間、朝8時から早朝宣伝を続けています。

この日は冷たい雨が降る中、9人が参加。通勤中の車に手を振り、「憲法違反の戦争法廃止！」の横断幕やのぼりを掲げてアピールしました。

増田正子さん(66)は「戦争法は嫌です。難儀して育ててきたのに、子どもたちが戦争に取られるようなことになったらと思うと怖い。ここで宣伝していると、手を振ってくれる町民の方もいる」と話します。

佐伯淳代表幹事は「九条の会の活動を、どう発展する方向へ切り開いていくか、次の世代へどうつなげていくかが課題です。活動も学習も、押しつけや一部の参加ではなく、みんなで話し合い、ともに考え、力を合わせていきたい」と語っています。

戦争になってからでは遅いから

【岐阜県・岐阜九条の会】 岐阜九条の会は9日、名鉄岐阜駅前で「9の日」行動を9人の参加で行いました。

事務局の吉田隆さん(67)らが交代でマイクを握り、「安倍政権は、南スーダンPKOの陸上自衛隊の日報に『戦闘』と記載さ

れているものを『衝突』といい、共謀罪法案質疑に関しては法務大臣が質問封じの文書を作成するなど、安倍政権の隠蔽、質問封じ体質が浮き彫りとなった。戦争法を廃止し、憲法も民主主義も無視する共謀罪は絶対に阻止しよう」と訴えました。

ビラを受け取った 20 代の女性は「なぜ、こういう活動をしているのですか」と質問。スタッフは「安倍政権が国民にウソを語り、数の力で悪法を通す暴挙に出ている。国民に真実を知ってもらい、反対すること必要です」と説明すると、「そうなんですか」と納得。40 代の女性は「戦争はすぐ起きないと思うけど、なってからでは遅いから反対しないといけない」と話しました。

共謀罪反対訴えランチタイムデモ

【和歌山県・憲法 9 条を守る和歌山弁護士会】 「弁護士の会」は 2 月 13 日、「憲法の破壊を許さないランチ TIME デモ」を和歌山市で実施し 70 人が参加しました。

和歌山市役所前でのデモ出発集会で藤井幹雄弁護士は、国会論戦により共謀罪の問題点が次つぎ明らかになっていると指摘。また南スーダン P K O をめぐる稲田朋美防衛相の発言について「戦闘があったのに、憲法上問題になるから戦闘という言葉は使わない。どういう論理だ」と批判しました。

参加者らは「憲法の破壊を許さない」という横断幕を先頭に、「反対です共謀罪『話し合う』ことが犯罪に」の横断幕なども掲げ、市内を行進しました。

民進、共産の野党代表も参加して

【東京都江戸川区・九条の会・葛西】 1

月 22 日、『戦争させない江戸川の会』主催で、「安倍政治ノー」「憲法破壊 戦争法ノー」「自衛隊の南スーダンからの撤退」等を訴える『リレートーク宣伝行動』が実施され 45 名が参加しました。九条の会葛西からも 10 名以上が参加し、発言しました。

横断幕やパネルを掲げ、「ストップ 戦争する国づくり」のチラシの入ったティッシュや「いかそう日本国憲法」のリーフレットを配り、「南スーダンからの撤退」の署名など、活発な宣伝活動を実施しました。

リレートークでは、弁護士、婦人団体、九条の会、元教師など、様々な立場から発言し、葛西からは、今、国会で論議されている「共謀罪（テロ等準備罪）」の危険性について発言しました。

宣伝行動には、民進党や共産党の都議会議員・元議員、区議会議員も参加しました。

「安倍暴走政治」をストップし、戦争法の廃止や立憲主義を取り戻すには、選挙で勝つしかない。「野党共闘」を大いに推進する決意が述べられました。

チラシを広げて読んでいる若者、「僕たちもしっかり考えていきたい」とカンパを寄せた高校生、横断幕をじっと読み進んできて「私は何をしたらよいですか」と声をかけてきた年配の女性。「戦争する国なんていやだ」の思いが広がった、宣伝行動でした。

（「九条の会葛西だより」121 号）

沖縄から日本が見えてくる

【東京都足立区・千住九条の会】 千住九条の会は 2 月 9 日夜、千住介護福祉専門学校講堂にて、参議院議員福島みずほさん、元 S E A L D s 琉球の元山仁士郎さんを迎

えトークセッション。118名が参加しました。

まず元山さんが「沖縄の現状」についてミニ講演。沖縄生まれの元山さんは、生まれた時から基地のある生活をしていて、日常的に騒音や、危険と隣り合わせにいたが、米軍基地反対行動をしている人々がいても、デモをしても基地はなくならないと思っていました。しかし、上京し、基地のない生活をして、自分は何で、騒音や事故におびえながら生きていたのかと基地問題に目を向けた。辺野古も高江も工事が始まってしまったが、高江は美しいところ、戦争をするための基地はいらない、と訴えました。

続いて福島みずほさんが沖縄は緊急事態条項、共謀罪等、憲法改悪を先取りしている。高江、辺野古では環境破壊、生活破壊、民主主義が壊されている。美しい海に新基地を造ってはならないと強調しました。

寒い日でしたが、参加者も交えたトークセッションも行い熱気あふれる集いでした。

市民と野党の共闘の前進を

【札幌市南区・南区9条の会等】 札幌市南区の「戦争法に反対する南区民の会」と9条の会などは2月3日、地下鉄真駒内駅前、「アベ政治許さない」スタンディング行動を行いました。

2人の子の母親をはじめ、戦争体験者、宗教家など4人がリレートーク。「武力行使はテロリストと難民を増やすだけです」「人種、宗教が異なっても、対立ではなく、共存共生できる世界を築いていきましょう」などと訴えました。

通りがかった市民は「市民と野党の共闘を前進させたいね」「平和主義、立憲主義、

加藤周一さんを偲んで

「九条の会」呼びかけ人で、憲法を守る活動の中心に立ち、2008年に亡くなった加藤周一さんを語る集いが、2月4日に札幌市で開催されました。会場いっぱい約200人が参加。主催は文学講座委員会です。

元NHKプロデューサーの桜井均さんと、東京大学教授で九条の会事務局長の小森陽一さんが対談。対談では、太平洋戦争開戦時に医学生だった加藤さんが、自分はこの戦争は負けるとわかっていたが多くの文化人はだまされていたと述べたエピソードを紹介。中国戦線で人間の尊厳を壊され帰還した親友のことを悔み、戦争に強い怒りを持っていることなども語られました。桜井さんは、加藤さんが9条を守る立場でNHK番組に出演し、スタジオ参加者の多くの共感を得たと語りました。

会場では桜井さんが編集したドキュメンタリー番組を上映。この中で加藤さんが「戦争を止めるために九条の会をつくった。自衛隊が海外に派遣されても、早く撤退して戦争をやめさせる努力をしなければならない」と語る姿が映し出されました。

中央区の中学校教員（58）は「加藤さんの話は有意義でした。戦争を止めるのは現代の私たちの責任です」と話しました。

民主主義、基本的人権を破壊する安倍政治を変えないと安心できない」と声をかけ、「がんばって」と手を振って激励していく姿も見られました。